

大学入学共通テストの記述式問題の採点に関する準備事業の概要

平成30年度試行調査を踏まえ、大規模な記述式問題の採点を限られたスケジュールの中で円滑に実施するために、高等学校等の協力を得ながら、具体的答案を活用して採点過程を検証し、その改善を図る。

■ 目的

以下の点について検証し、採点に関する一連の過程の改善を図る。

- ・ 大学入試センターと採点事業者との役割分担や連携のための運営の在り方
- ・ 採点者への事前研修の在り方
- ・ 採点に関する各過程及び全体のスケジュールの在り方 等

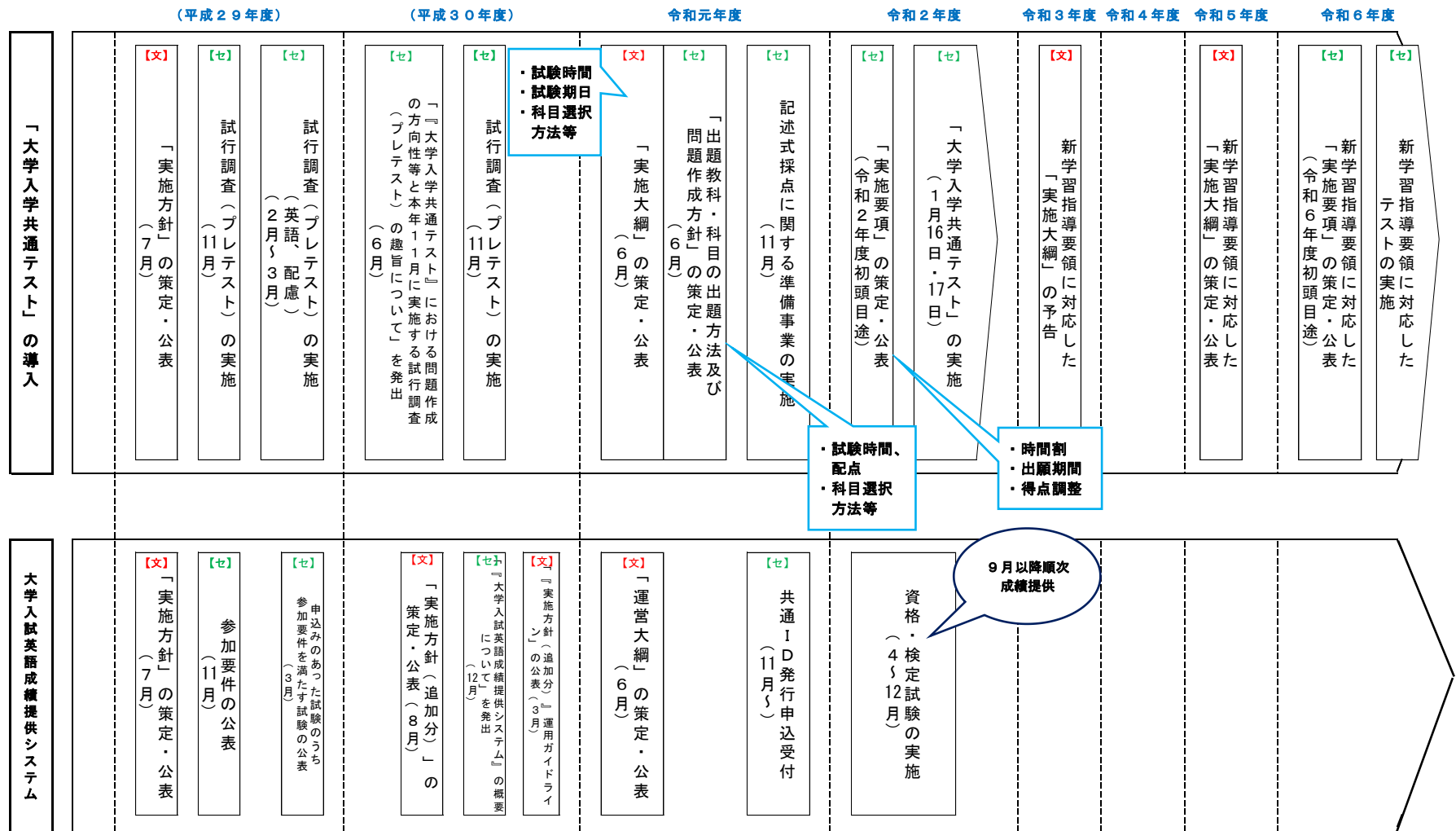
■ 実施

- ・ 令和元年度中に決定する予定の採点事業者において実施する。
- ・ 検証に必要な答案については、高等学校のほか、大学生等の協力を得て収集する。

【高等学校における実施】

①実施時期	・ 令和元年11月、各協力校が任意の日時で実施
②実施科目	・ 国語（記述式のみ）及び数学Ⅰ（記述式（必要に応じてマーク式も出題）） ※既存の問題の活用・改題も含め検討
③実施規模	・ 各科目1万人程度
④実施会場	・ 各協力校
⑤対象者	・ 高等学校第1学年の生徒（中等教育学校後期課程の相当する学年を含む） ※ 第1回目（令和3年（2021年）1月）の大学入学共通テストの受験対象とならない生徒を参加対象とする。

今後の主な検討・準備スケジュール（令和元年7月現在）



令和元年6月4日付けで通知された文部科学省の「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱」に基づき、令和元年6月7日付けで、**「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法及び大学入学共通テスト問題作成方針について」**を、全国の高等学校等・大学に発出。

通知の内容

- 別紙1の「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法及び」において、「出題教科・科目」、「出題方法及び」、「科目選択の方法及び」や「試験時間（配点）」などを明示。
- 別紙2の「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」*において、「問題作成の基本的な考え方」、「出題教科・科目の問題作成のねらい、範囲・内容等」、「記述式問題及びマーク式問題の新たな出題形式」や「大学への成績提供等」などを明示。

* 大学入学共通テストの導入に伴い、今年度から新たに発出するもの。

※ なお、令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストに関する「実施要項」は、改めて令和2年6月30日までに通知する予定。

大学入試センター試験における出題教科・科目の出題方法等からの主な変更点

【国語・数学①】記述式問題の出題に伴う試験時間の延長

- ◆ 「国語」は**100分**（大学入試センター試験では80分）
- ◆ 「数学①」は**70分**（大学入試センター試験では60分）

【国語】段階表示の追加

- ◆ 記述式問題の導入に伴い、「**国語**」の**段階表示を追加**（「数学①」の記述式問題は配点による表示）。

【理科②】選択問題の出題に関する表示の削除

- ◆ 「理科②」（「物理」、「化学」、「生物」、「地学」）の**選択問題を出題しないこととした**ことによる表示の削除。

【外国語】名称及び配点の変更

- ◆ 外国語の「英語（筆記）」を「**英語（リーディング）**」に改称し、リーディングの内容に特化。
- ◆ 配点を「**英語（リーディング）**」を**100点**、「**英語（リスニング）**」を**100点**に変更（大学入試センター試験では、「英語（筆記）」を200点、「英語（リスニング）」を50点）。
- ※ 試験時間については、「英語（リーディング）」は80分、「英語（リスニング）」は60分（うち解答時間30分）で、大学入試センター試験からの変更はなし。

【リスニング】読み上げ回数の変更

- ◆ 「英語（リスニング）」の問題音声の流れる回数を **1 回読みのものと 2 回読みのもので構成する**ことを明記（大学入試センター試験では、すべて 2 回読みのもので構成）。

1. 出題教科・科目等①

令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等①

教科	グループ	出題科目	出題方法等	科目選択の方法等	解答方法等	試験時間(配点)
国語		『国語』	「国語総合」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章、古典(古文、漢文)を出題する。		マーク式及び記述式(記述式は近代以降の文章のみ)	100分(マーク式問題200点及び記述式問題の段階表示)
地理歴史		「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	『倫理、政治・経済』は、「倫理」と「政治・経済」を総合した出題範囲とする。	左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。 なお、受験する科目数は出願時に申し出ること。	マーク式	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分)(200点)
公民		「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 『倫理、政治・経済』				
数学	①	「数学Ⅰ」 『数学Ⅰ・数学A』	『数学Ⅰ・数学A』は、「数学Ⅰ」と「数学A」を総合した出題範囲とする。ただし、次に記す「数学A」の3項目の内容のうち、2項目以上を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔場合の数と確率、整数の性質、図形の性質〕	左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。	マーク式及び記述式(記述式は数学Ⅰの内容にかかわる問題のみ)	70分(100点(記述式問題を含む。))
	②	「数学Ⅱ」 『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	『数学Ⅱ・数学B』は、「数学Ⅱ」と「数学B」を総合した出題範囲とする。ただし、次に記す「数学B」の3項目の内容のうち、2項目以上を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔数列、ベクトル、確率分布と統計的な推測〕 『簿記・会計』は、「簿記」及び「財務会計Ⅰ」を総合した出題範囲とし、「財務会計Ⅰ」については、株式会社の会計の基礎的事項を含め、財務会計の基礎を出題範囲とする。 『情報関係基礎』は、専門教育を主とする農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する基礎的科目を出題範囲とする。	左記出題科目の4科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、『簿記・会計』及び『情報関係基礎』の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。	マーク式	60分(100点)

1. 出題教科・科目等②

令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等②

教科	グループ	出題科目	出題方法等	科目選択の方法等	解答方法等	試験時間(配点)
理科	①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」		左記出題科目の8科目のうちから下記のいずれかの選択方法により科目を選択し、解答する。 A 理科①から2科目 B 理科②から1科目 C 理科①から2科目及び理科②から1科目 D 理科②から2科目 なお、受験する科目の選択方法は出願時に申し出ること。	マーク式	【理科①】 2科目選択 60分(100点) 【理科②】 1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分)(200点)
	②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」			マーク式	
外国語		『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	『英語』は、「コミュニケーション英語Ⅰ」に加えて「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「英語表現Ⅰ」を出題範囲とし、「リーディング」と「リスニング」を出題する。 なお、「リスニング」の問題音声は、1回読みのもものと2回読みのもので構成する。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。	マーク式	『英語』 【リーディング】 80分(100点) 【リスニング】 60分(うち解答時間30分)(100点) 『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』 【筆記】 80分(200点)

2. 大学入学共通テスト問題作成方針①

第1 問題作成の基本的な考え方

(1) 大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成

これまで問題の評価・改善を重ねてきた大学入試センター試験における良問の蓄積を受け継ぎつつ、高等学校教育を通じて大学教育の入口段階までにどのような力を身に付けていることを求めるのかをより明確にしながら問題を作成。

(2) 高校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う問題作成

平成21年告示高等学校学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視。

問題作成のねらいとして問いたい力が、高等学校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう、出題教科・科目において問いたい思考力、判断力、表現力を明確にした上で問題を作成。

(3) 「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定

高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等をもとに考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視。

2. 大学入学共通テスト問題作成方針②

第2 出題教科・科目の出題方法等、問題作成のねらい、範囲・内容等

出題教科・科目の出題方法等

出題教科・科目等については、「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」（スライドP15・16を参照）のとおり。

問題作成のねらい、範囲・内容

「第1」に示す基本的な考え方を踏まえつつ、高等学校学習指導要領に準拠するとともに、高等学校学習指導要領解説及び教科書を基礎とし、特定の事項や分野に偏りが生じないように留意。

なお、高等学校等における通常の授業を通じて身に付けた知識の理解や思考力等を、新たな場面でも発揮できるかを問うため教科書等で扱われていない資料等も扱う場合がある。

問題の分量・程度

問題の分量は、試験時間に応じた適切なものとなるように配慮。

出題教科・科目に選択科目、選択問題がある場合は、科目内選択問題間及び選択問題間の平均得点率に著しい差が生じないように配慮。

問題作成における配慮事項

障害等のある入学志願者への合理的配慮を踏まえ、情報の読み取りや解答の過程で想定される様々な困難さを考慮した上で、問いかけの在り方や資料の提示の仕方、レイアウトの工夫等について配慮。

2. 大学入学共通テスト問題作成方針③

第3 出題教科・科目の問題作成の方針

具体的な問題作成に当たっては、「出題教科・科目の問題作成の方針」（「3. 出題教科・科目等の問題作成の方針の概要」を参照）に基づき作成。

第4 記述式問題及びマーク式問題の新たな出題形式

記述式問題

- 国語と数学において、それぞれ小問3問の記述式問題を導入し、解答用紙に新たに記述式問題の解答欄を設ける。問題の内容等については、出題教科・科目の問題作成の方針に示すとおり。
- 記述式問題の成績については、国語では、マーク式問題とは異なり、全体及び小問ごとの段階表示^{*1}。また、数学では、段階表示は行わず、マーク式問題と同様に配点。
- 記述式問題の採点は、民間事業者に採点作業を委託しながら、大学入試センターで実施。

マーク式問題の新たな出題形式^{*2}

マーク式問題の新たな出題形式として、いわゆる連動型の問題（連続する複数の問いにおいて、前問の答えとその後の問いの答えを組合せて解答させ、正答となる組合せが複数ある形式）を「第2」に示す問題作成のねらい、範囲・内容等を踏まえて出題する場合がある。

*1 各小問は4段階表示とし、大問は最も字数の多い設問を1.5倍の重み付けを行った上で5段階表示とした試行調査を踏まえ、引き続き検討中。

*2 当てはまる選択肢を全て選択する問題を出題することについては、薄いマークと消し跡を明確に区別して読み取る基準を技術的に設定することが難しいため、出題しないこととした。

記述式問題の解答用紙イメージ

- 国語と数学Ⅰにおいて、それぞれ小問３問の記述式問題を導入
- 解答用紙には新たに記述式問題の解答欄が設けられる

○国語解答用紙イメージ（記述式解答欄のみ）

[illegible]

○数学解答用紙イメージ

数学 I・数学 A 解答用紙・第 1 面

注意事項

1. 受験生は、この解答用紙は、その用紙の裏面に記入すること。
2. 解答用紙は、試験終了後指導員が回収し、厳重に管理すること。
3. 付いた、正しい解答を記入し、選択式問題を、1行1行で解答する。
4. 解答欄には、マークシートの記入方法に準じて記入すること。
5. 記入した、解答欄を訂正してはならない。

946:03C0101

1	答	解
1	1	1.000...0000
2	2	2.000...0000
3	3	3.000...0000
4	4	4.000...0000
5	5	5.000...0000
6	6	6.000...0000
7	7	7.000...0000
8	8	8.000...0000
9	9	9.000...0000
10	0	0.000...0000
11	1	1.000...0000
12	2	2.000...0000
13	3	3.000...0000
14	4	4.000...0000
15	5	5.000...0000
16	6	6.000...0000
17	7	7.000...0000
18	8	8.000...0000
19	9	9.000...0000
20	0	0.000...0000
21	1	1.000...0000
22	2	2.000...0000
23	3	3.000...0000
24	4	4.000...0000
25	5	5.000...0000
26	6	6.000...0000
27	7	7.000...0000
28	8	8.000...0000
29	9	9.000...0000
30	0	0.000...0000
31	1	1.000...0000
32	2	2.000...0000
33	3	3.000...0000
34	4	4.000...0000
35	5	5.000...0000
36	6	6.000...0000
37	7	7.000...0000
38	8	8.000...0000
39	9	9.000...0000
40	0	0.000...0000
41	1	1.000...0000
42	2	2.000...0000
43	3	3.000...0000
44	4	4.000...0000
45	5	5.000...0000
46	6	6.000...0000
47	7	7.000...0000
48	8	8.000...0000
49	9	9.000...0000
50	0	0.000...0000

2	答	解
1	1	1.000...0000
2	2	2.000...0000
3	3	3.000...0000
4	4	4.000...0000
5	5	5.000...0000
6	6	6.000...0000
7	7	7.000...0000
8	8	8.000...0000
9	9	9.000...0000
10	0	0.000...0000
11	1	1.000...0000
12	2	2.000...0000
13	3	3.000...0000
14	4	4.000...0000
15	5	5.000...0000
16	6	6.000...0000
17	7	7.000...0000
18	8	8.000...0000
19	9	9.000...0000
20	0	0.000...0000
21	1	1.000...0000
22	2	2.000...0000
23	3	3.000...0000
24	4	4.000...0000
25	5	5.000...0000
26	6	6.000...0000
27	7	7.000...0000
28	8	8.000...0000
29	9	9.000...0000
30	0	0.000...0000
31	1	1.000...0000
32	2	2.000...0000
33	3	3.000...0000
34	4	4.000...0000
35	5	5.000...0000
36	6	6.000...0000
37	7	7.000...0000
38	8	8.000...0000
39	9	9.000...0000
40	0	0.000...0000
41	1	1.000...0000
42	2	2.000...0000
43	3	3.000...0000
44	4	4.000...0000
45	5	5.000...0000
46	6	6.000...0000
47	7	7.000...0000
48	8	8.000...0000
49	9	9.000...0000
50	0	0.000...0000

第1問 (1) A

第1問 (2) B

第1問 (3) C

第1問 (4) D

第1問 (5) E

第1問 (6) F

第1問 (7) G

第1問 (8) H

第1問 (9) I

第1問 (10) J

第1問 (11) K

第1問 (12) L

第1問 (13) M

第1問 (14) N

第1問 (15) O

第1問 (16) P

第1問 (17) Q

第1問 (18) R

第1問 (19) S

第1問 (20) T

第5 障害等のある入学志願者に対する問題の作成等

障害等のある入学志願者に対する合理的な配慮を行うため、現行の大学入試センター試験で実施してきた受験上の配慮事項を踏まえ、大学入学共通テストにおける受験上の配慮事項等について検討を行っている。

① 点字受験に関する配慮

- 国語の記述式問題について、一般問題冊子の記述式問題は3問であるが、解答時間と解答する字数等や問題数のバランス、問いたい資質・能力を踏まえ、点字問題冊子は2問とする（数学は一般の受験者と同じ3問）。
- 国語の記述式問題について、記述する文字数が多い問については解答字数制限を設けない。

② 問題の解答に関する配慮

- 一般の解答欄のサイズでは文字を記入することが困難な受験者への配慮として、解答欄の大きさやレイアウトを変更した複数の解答用紙の中から、自分に適した解答用紙を選択できるようにする方向で検討。
- 解答欄の大きさに関わらず文字を記入することが困難であり、高等学校等の授業や定期試験等で日常的にパソコンを使用している受験者への配慮として、センターが開発した国語及び数学の記述式問題解答入力システムを用いて解答を行うことについて検討。

- ◎ その他、これまでのセンター試験の配慮事項（拡大文字問題冊子の配付、マーク式問題における点字による解答、文字による解答、チェックによる解答、補助者による解答の代筆など）を継承する。

第6 大学への成績提供等

- 大学に提供する成績の内容については、個人別成績データとして、得点合計、科目別得点等に加え、新たに国語の記述式問題の全体及び小問ごとの段階表示。
また、参考情報として科目ごとの9段階の段階表示を提供及び国語の大問別得点＊を提供。
 - 大学入学共通テストの成績提供日については、令和2年6月頃に発出予定の「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」において、次のとおりとする予定。
 - ・ **私立大学：令和3年2月9日（火）** から
 - ・ **国公立大学：令和3年2月11日（木）** から
- ※ ただし、国公立大学の共通テストを課す総合型選抜及び学校推薦型選抜については、令和3年2月10日（水）から行う。
- 大学入学共通テスト実施後に公表する資料については、従来、大学入試センター試験において公表している正解表等に加え、以下の資料を公表。
 - ・ 記述式問題の正答例及び正答の条件、国語の記述式問題における段階ごとの割合
 - ・ マーク式問題の科目別得点と段階表示の換算表

＊ 大問別得点の詳細は、近代以降の文章（マーク式問題2問100点）、古典（古文（1問50点）、漢文（1問50点））

3. 出題教科・科目の問題作成の方針の概要①

国語

- 記述式問題は、**小問 3 問で構成される大問 1 問を作成**。実用的な文章を主たる題材とするもの、論理的な文章を主たる題材とするもの又は両方を組み合わせたものとする。
- 小問 3 問の解答する字数については、**最も長い問題で80～120字程度を上限として設定**し、他の小問はそれよりも短い字数を上限として設定する^{*1}。

数学（数学、『簿記・会計』、『情報関係基礎』）

＜＜「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」＞＞

- 記述式問題は、「数学Ⅰ」及び『数学Ⅰ・数学A』の**数学Ⅰの内容に関わる問題において設定**し、**マーク式問題と混在させた形で数式等を記述する小問 3 問を作成**する^{*2}。

＜＜『簿記・会計』＞＞

- 経済活動に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。

＜＜『情報関係基礎』＞＞

- 情報と情報技術についての科学的な探究の過程を重視する。

*1 試行調査では、小問 3 問について、20～30字程度、40～50字程度、80～120字程度を記述する問題をそれぞれ 1 問ずつ出題していたが、試行調査の結果を踏まえ、上記の方針とした。

*2 試行調査では、数式を記述する問題、または問題解決のための方略等を端的な短い文で記述する問題を出題していたが、試行調査の結果を踏まえ、問題解決のための方略等を端的な短い文で記述する問題は出題しないこととした。

3. 出題教科・科目の問題作成の方針の概要②

地理歴史（地理（「地理A」「地理B」）、歴史（「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」））

≪地理（「地理A」「地理B」）≫

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。

≪歴史（「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」）≫

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。

公民（「現代社会」「倫理」「政治・経済」）

≪「現代社会」≫

- 現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。

≪「倫理」≫

- 人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。

≪「政治・経済」≫

- 現代における政治、経済、国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。

3. 出題教科・科目の問題作成の方針の概要③

理科（「物理」「化学」「生物」「地学」）

- 大学入試センター試験で出題されてきた**理科の選択問題については、設定しない。**

外国語（『英語』（【リーディング】【リスニング】））

- 発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しない。
- 「リーディング」「リスニング」ともに、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、A1からB1レベルに相当する問題を作成する。
- 「リーディング」については、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。
- 「リスニング」の読み上げ回数については、**1回読みを含め**、十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及する。
- 「リーディング」と「リスニング」の配点は、**それぞれ100点とする。**

※ 各教科・科目の問題作成の方針については、令和元年6月7日付けで発出した「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法及び大学入学共通テスト問題作成の方針について」の別添「出題教科・科目の問題作成の方針」を参照。

Q. 平成30年度の試行調査における問題の内容・形式、難易度等が共通テストでも同様に 出題されるのか

A. 平成30年度の試行調査において、平均得点率（平均正答率）が5割以上となった教科・科目等については、試行調査における問題作成の方向性を問題作成方針に反映し、共通テストの作問に生かしていく。5割程度に達しなかった5科目（数学2科目及び理科3科目）については、改善する内容を問題作成方針に反映し、共通テストの作問に生かしていくこととしている。ただし、個別の問題の内容・形式、難易度等については、今後の具体的問題作成の過程で必要に応じた検討を行う。

Q. リーディングとリスニングの配点が均等となったが、大学への成績提供は合計点のみの 提供なのか、それとも科目別得点についても提供されるのか

A. 各大学には、科目別得点（リーディング、リスニング別の得点）及びその合計点を提供する。
なお、各大学のアドミッションポリシーに基づき、リーディングとリスニングの比重を変えることも可能。

Q. 過年度卒業者用の別問題は作成するのか

A. 現行の高等学校学習指導要領に基づく学習範囲の中から出題されるという点については、令和2年度大学入学者選抜大学入試センター試験と変更はないことから、過年度卒業者用の別問題は作成しない。

文部科学省のHP

(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/07/1388131.htm)

大学入学共通テスト実施方針

大学入試センターのHP

(<https://www.dnc.ac.jp/>)
のトップページ

大学入学共通テスト出題教科・科目
の出題方法及び問題作成方針

平成29年度及び平成30年度試行調査
の問題、正解表、解答用紙、問題の
ねらい等

大学入試英語成績提供システム基本
情報
など

